



患者さんへのお願い

—安全な医療に
ご協力いただくために—

2022.1 作成 医療安全対策室

当院が、日頃取り組んでいる医療安全と感染対策のポイントをまとめました。

患者さんと医療スタッフが協力し合い、よりよい医療を進めることができるよう、ご理解とご協力をお願いします。

【パンフレット記載内容】

1. お名前の確認にご協力ください。
2. 薬の持参にご協力ください。
3. アレルギー予防にご協力ください。
4. 転倒・転落防止にご協力ください。
5. 感染対策にご協力ください。
6. 採血・注射・点滴を受けられる患者さん・付き添いの方へ



社会福祉法人 聖徳済生会

石川県済生会金沢病院

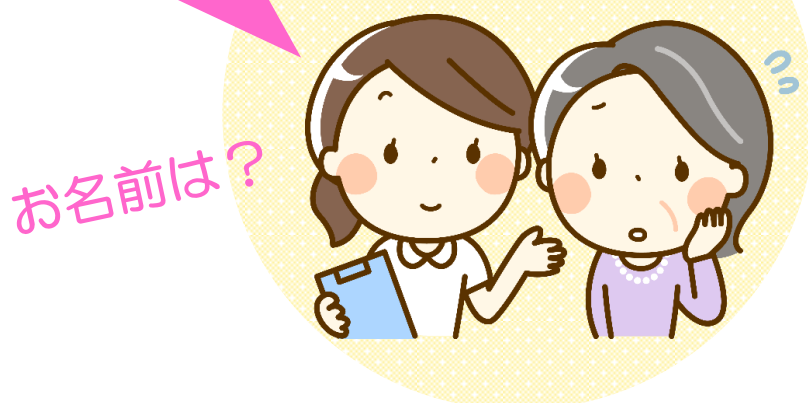
SAISEIKAI KANAZAWA HOSPITAL

1. お名前の確認にご協力ください。



診察・検査・薬剤を受ける
ときは、その都度お名前を
確認させていただきます。
繰り返しになりますが、
ご協力お願いします。

お名前をフルネームで
お願いします。



何度も聞いて
ごめんなさい。



- 患者さんの間違いを防ぐために、すべての手続きにおいてお名前を確認させていただきます。
- 以前から通院されている患者さんでも、診察・手術・検査・薬のお渡しなどの時は、フルネームを名乗っていただきます。
- 必要に応じて、生年月日や住所をお尋ねする場合があります。
- 医療スタッフが確認を忘れた時は、注意の言葉をおかけください。
- 入院患者さんは、お名前を記入した「リストバンド」を手首に装着していただくようお願いします。

2. 薬の持参にご協力ください。

入院される患者さんが、日頃から使用している薬を入院当日にご持参していただき、入院中に処方される薬との飲み合わせを確認します。原則、入院中は持参薬は用いませのでご了承ください。

ご持参 ください

- (1) 現在使用している全ての薬
飲み薬、吸入薬、貼り薬、塗り薬、目薬、坐薬など
他の病院からの薬や市販薬など
- (2) 薬の説明書（薬剤情報提供用紙）
- (3) お薬手帳
- (4) 薬袋（薬の入っている袋）
- (5) 健康食品やサプリメント



持参薬を 確認する 利 点

- (1) 持参薬とこれからの治療に必要な薬との飲み合わせを確認することで、重複投与や副作用を避けることができます。
- (2) 手術前や内視鏡検査前などに、中止すべき薬を確認できます。
- (3) 患者さんの薬の飲み方について、薬剤師が確認できます。
- (4) 健康食品やサプリメントと薬の飲み合わせを確認できます。



薬の情報を早く、正確に把握することは、入院後の治療をより適切に行う上で、とても重要です。
大切な情報源です。忘れずにご持参ください。



3. アレルギー予防にご協力ください。



お食事やお薬でアレルギーを起こす場合があります

アレルギー症状には、鼻炎や皮膚炎、結膜炎など比較的軽いものもありますが、造影剤や食物のなかには、急激に血圧が下がるような生命を脅かす重大なアレルギー症状もあります。

食事や飲み薬、注射、絆創膏などでアレルギー症状が出たとか、原因は何かわからないがアレルギーだと言われたことがある…。

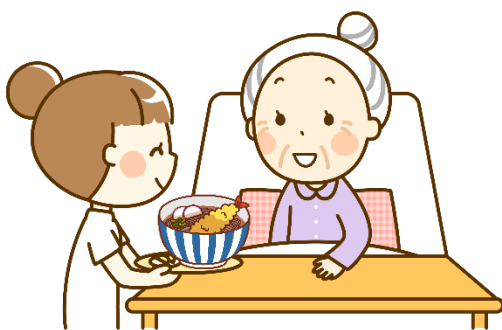
このようなアレルギー歴は入院時にお知らせください。

また、医療用手袋に触れられて起きるアレルギー（ラテックスアレルギー）もありますので、心配な方は必ずご相談ください。



★当院で実際に起こった例

①そば禁止であったが、病院で出たものだから大丈夫と思い食べてしまった。



②造影剤検査でアレルギーがでたがその時はたいしたことは無かったから申告しなかった。



※お身体に異常が出たときは、すぐに医師・看護師にお知らせください。

4. 転倒・転落予防にご協力ください。

入院中は病状の変化による筋力の低下や注意力の低下、慣れない環境により、思いがけずに転んでしまうことがあります。そこで次のようなことに注意して、転倒や転落のない入院生活を送っていただくようお願いします。

転倒・転落を防ぐためのお願い

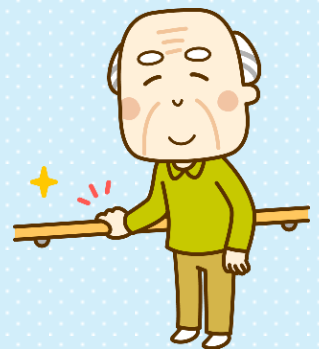
ベッドサイド では



- ベッドから起きあがる時は、ベッド柵につかまりましょう。
- ベッドから離れるときはゆっくり行動しましょう。
- 物を取るとき、無理な姿勢は避けましょう。
- 点滴棒やオーバーテーブルなど、不安定な物につかまらないようにしましょう。
- 遠慮なくナースコールしましょう。

トイレ では

- 手すりにつかまりましょう。
- 遠慮なくナースコールしましょう。



入院前・入院時に転倒・転落の危険性について、患者さんやご家族に「**転倒・転落予防自己評価チェック表（表裏あります）**」を用いて、評価をさせていただきます。



スリッパやサンダル等は転倒の原因となるため原則禁止しております。

足腰が、弱っている場合は、スリッパやサンダルは脱げやすく、思わぬところで、つまずいたりするため、リハビリシューズなど安全なくつを履きましょう。
売店に入院用シューズを販売しています。



★以下の場合、転倒をきたしやすくなる可能性があるため、病棟の医療スタッフにお知らせください。

- 強度の貧血やメニエール病などのめまいを起こす可能性がある場合。
- 血圧の薬、睡眠薬、精神安定剤、解熱剤、抗アレルギー剤などを服用されている場合。

薬剤に関しては医師や薬剤師にご相談下さい。



★ベッドからの起き上がりや夜間のトイレ時など転倒の危険性が高い場合は、看護師が付き添わせていただきます。指示に従いベッドでお待ち下さい。



★手すりや杖を利用しましょう。

廊下や階段は、手すりを使い移動しましょう。病気により体力が低下していることがあります。



ご心配なことや、わからないことがありましたら、遠慮なく、医師や看護師、薬剤師、リハビリ技師にご相談ください。

続けることが肝心です。

ロコモを防ぐ運動「ロコトレ（ロコモーショントレーニング）」

「ロコトレ」でいつまでも元気な足腰を

ロコトレはたった2つの運動です。無理せず自分のペースで行いましょう！

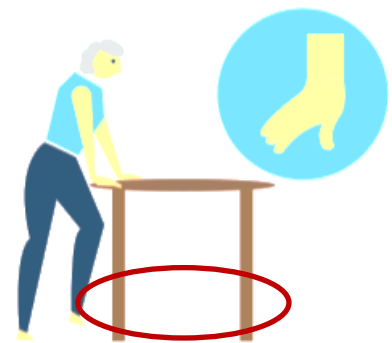
1

バランス能力をつけるロコトレ「片脚立ち」

1日3度ほど、左右1分間ずつ行いましょう。

転倒しないように
固定されたつかまる
ものがある場所で
行いましょう。

床につかない程度に
片脚を上げます。

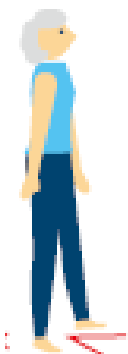


支えが必要な人は、
転倒に注意して**固定された机に**
手をつけて行いましょう。

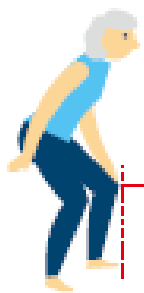
2

下肢筋力をつけるロコトレ「スクワット」

1日3度ほど、深呼吸をするペースで5～6回繰り返し行いましょう。



つま先は30度
ずつ開く



膝が足より出ない
ようにする



支えが必要な人は、
転倒に注意して**固定された机に**
手をつけて行いましょう。

ポイント

- 動作中は息を止めないようにします。
- 膝に負担がかかり過ぎないように、膝は90度以上曲げないようにします。
- 膝を足の人差し指の方向に向けて、お尻を後ろに引くように身体をしずめます。
- 支えが必要な人は、十分注意して、机に手をつけて行います。

5. 感染対策にご協力ください。

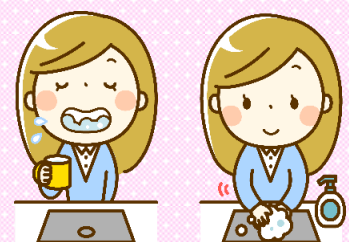
感染症に対する対応について

- 入院前に感染症の問診を行いますので、ご協力をお願いします。
- 他施設から感染症で入院された場合や、院内で拡がりやすい感染症にかかった場合は個室に入っていただくこともあります。
例) インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症、
MRSA（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌）、結核、麻疹など。
- 感染を拡げないように医療者はマスクや手袋、エプロンをつけて、処置やケアを行うことがありますのでご了承ください。



サラヤ株式会社 ホームページより

- 入院中は、免疫力が低い患者さんが多くいらっしゃいますので、患者さん自身を守るために、手をこまめに洗い、感染予防にご協力をお願いします。
- 針刺し事故が起こった場合には、血液検査で患者さんの感染症を調べさせていただくことがあります。



★多くの細菌やウイルスは、手から患者さんの体内に入り込みます。
入院中はこまめに手洗いして、感染予防に心がけましょう。

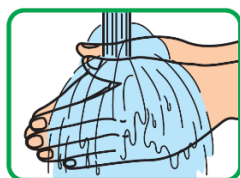
手指衛生の方法について

正しい手洗いで、
感染を予防しよう！



手洗いの 手順

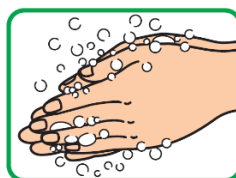
- 石鹸を使い十分洗い、流水で洗い流すことでウイルスが減少します。
- 水道の蛇口は洗う前の手で触れているので、ペーパータオルを利用して、蛇口を閉めると手の汚染が防げます。
- 指先や爪の間、指の間、親指の間は汚れが残しやすいところです。十分洗い流しましょう。



1 まず手指を
流水でぬらす



2 泡せっけん液を適量
手の平に取り出す



3 手の平と手の平を
擦り合わせよく泡立てる



4 手の甲を もう片方の
手の平で もみ洗う (両手)



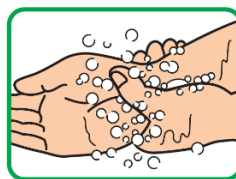
5 指を組んで 両手の
指の間を もみ洗う



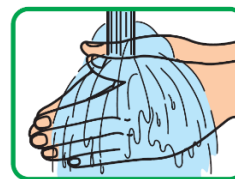
6 親指を もう片方の
手で包み もみ洗う (両手)



7 指先を もう片方の
手の平で もみ洗う (両手)



8 両手首まで
ていねいに もみ洗う



9 流水でよくすすぐ



10 ペーパータオルで
よく水気を拭き取る

サラヤ株式会社 ホームページより

擦式アルコールの手指消毒の手順



6. 採血・注射・点滴を受けられる 患者さん・付き添いの方へ



国家資格を有する看護師、臨床検査技師が、十分な知識に基づいた上で実施をしますので、合併症の頻度は少なく、かつ軽度なものが多いとされています。しかし、採血・注射・点滴は、基本的には安全性の高い手技ですが、極まれに以下のような**合併症（併発症）**が起きることがあります。

下記の禁忌に該当、合併症を起こしたことがある方は、スタッフへ事前にお知らせください。

禁忌・注意が必要な場合

麻痺、乳房切除術、血液透析中、静脈ポート植え込み中、抗凝固薬・抗血小板薬内服中、皮膚が弱い

合併症

止血困難、皮下出血（青あざ）

針を刺した後・抜いた後に血が止まりにくいこと、青あざができてしまうことがあります。また、押さえていないと衣服が汚れることがありますので、揉まずに5分間しっかり採血部位を押さえて止血してください。抗凝固剤・抗血小板薬など血液をサラサラにする内服している人は10分～15分圧迫止血をしてください。採血直後に、採血した腕で重い荷物を持ったり、杖や手押し車を押すことは控えましょう。

アレルギー反応・発赤

消毒薬（アルコール）や絆創膏・テープで、赤み・かゆみ・発疹がでることがあります。

めまい・気分不快

心理的な緊張や不安が強いと、神経が興奮してめまいや気分不快・意識消失などをひきおこすことがあります。

神経損傷

針先が神経に触れ、神経を傷つけることがまれにあります。約1万～10万回の採血に1回の頻度で起こるといわれており、皮膚表層近くの神経は個人差が多いため、神経損傷を100%防ぐことはできません。しかし、通常の採血では、太い神経の断裂などの可能性は低く、損傷は軽度で一時的な場合がほとんどですが、手指に広がるしびれや鋭い痛みを感じた時は、すぐお知らせください。

これらの合併症が起きた場合は、最善の処置を行います。

再採血

針が血管に入らなかった場合、1回の採血で必要な採血量が採取できない場合には、針を刺す場所を変えて再度実施させていただきます



社会福祉法人 石川県済生会

石川県済生会金沢病院

SAISEIKAI KANAZAWA HOSPITAL

